

公表事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2024年 10月 30日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		建物は元保育園。 目的に合わせて学習室・活動室に分け、各部屋十分なスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		児童福祉法に基づき必要な職員数を配置している。必要に応じて1対1の対応を行っている。学校へのお迎えをはしごせず安全に送迎が行われるように職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・学習室・活動室に分け構造化した環境。 ・障害特性があっても文字や時計が読めなくても理解できるよう視覚的手掛かりを取り入れた支援環境を整備。 ・構造上多少の段差はあるが、利用児の行動制限になるほどの段差やバリアはない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・掃除・消毒・換気を毎日こまめに実施。 ・心地よく過ごせるよう整理整頓を心掛けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・必要に応じてクールダウンできる場所や状況に応じて個別支援の体制がある。 ・パーテーション等を設置し、学習時も個室様の集中しやすい環境を整備している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		・PDCA サイクルに職員が参画している。 ・個別支援計画・モニタリング、支援会議等積極的な意見交換を行っている。 ・毎日の活動予定表で活動の目的・支援のポイント等を共有し、全職員が質の高い支援ができるよう心掛けている。 ・支援後は終礼で支援の振り返りを行い、翌日からの支援に活かしている。	勤務時間上、会議や終礼に参加できない職員もいるため、議事録で全職員へ共有し支援や対応の統一をしている。 今後より良い方法を探っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者向け評価表を実施しHPで公開。 それ以外にも日々の連絡ノート、長期休みや保護者会の機会にアンケートをとり、保護者や利用児の意向を把握し業務改善にいかしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎日の終礼や支援会議等、職員の意見を出したり話合う機会が多くあり、業務改善や支援にいかしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		2024年8月静岡県の実地指導で高い評価を頂いた。	実地指導で頂いたご指摘を業務改善に活かしていく。今後も機会があればぜひ第三者による外部評価を利用し、より良くしていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・校舎内で作業療法士から日々アドバイスを頂き、アセスメントから個別支援計画、日々の支援や活動に活かしている。 ・パート職員含め全職員が勤務時間内に研修を受けられるよう研修時間を工夫している。 ・法人内の職員研修に参加し学んでいる。 ・外部の研修にも参加する機会があり参加している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		見学や契約時にも支援プログラムをお伝えしている。 毎日の活動も、事前に支援プログラムを作成・検討・修正した上で実施し、支援後にお子さまの様子を含めご家族にお伝えしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		面談での聞き取りに加え、書面でも御利用児の様子や保護者のニーズを書いてもらい、個別支援計画に取り入れている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援会議や終礼等でお子さまの支援に関わる職員から意見を出し合い、児童発達支援管理責任者が整理し計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		必要な時に全職員が計画を確認できるようケース記録等にファイル保管し、計画に沿った支援を行っている。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	・医療機関等で実施されたフォーマルなアセスメントや検査結果はご家族を通して共有して頂いている。 ・行動観察等インフォーマルなアセスメントにおいては、日々支援にあたる全職員で行い、共有し、作業療法士等専門職の視点やアドバイスを取り入れたアセスメントを行っている。 ・ご家庭や小学校や関係機関と連携し情報共有を行い、取り巻く環境を含めた広い視点でのアセスメントを行っている。	セルフプランのお子さまが増えているため、相談支援専門員からの広域な情報が得られにくい状況が増えている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	個別支援計画に本人支援や家族支援に対する具体的な目標や支援内容を設定し、保護者面談で丁寧に共有し同意を得ている。	今後卒業生が出る予定のため、お子さまにとってより良い移行支援をしていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	毎日チームで活動プログラムについて共有し確認し、活動内容や難易度を事前に話し合い活動や支援の工夫をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	活動が固定化しないよう、アイディアを出し合って、季節や時期や御利用児の人数や様子に合わせた多彩な活動を工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	個別活動と集団活動の両方がバランスよく経験できるよう活動プログラム作成し、個別支援計画にも組み込まれている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	毎日支援前に打ち合わせをしている。朝礼・昼礼で事前に作成した活動予定表に基づいて活動・支援・注意点・役割分担の共有をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	毎日の終礼や全体会議で職員全員で支援中気づいたこと、気になること、今後の支援の方法などの振り返りを話し合い、情報共有し今後の支援に活かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	・毎日、終礼の記録、各お子さまのケース記録を徹底している。記録方法も工夫（適応行動と不適応行動に分けて記録）し、話し合い、支援の検証・改善につなげている。 ・家庭からの連絡帳にも気になる点があれば日々の記録に追記している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	・相談支援センターの協力をもとに定期的に実施している。 ・利用児のモニタリング等を日々職員間で話し合う機会を設けている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	・個々の状況にあわせた発達支援を行い、健全な育成を行えるよう、支援している。又保護者の悩みや相談を受け入れ、保護者支援も随時行っている。	
関係機関や	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	・職員が活動内容を決めるだけでなく、利用児からのリクエストを聞き活動に取り入れている。また活動中も子どもたちが意見を言いやすいようチーム名や作戦会議の機会を設けたり、発表の機会を作っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	相談支援事業所からのモニタリングに事業所内での様子を伝えている。また必要に応じて日々連携をし、サービス担当者会議に児童発達支援管理責任者（必要に応じて他の職員も）が出席し情報の共有や方向性の統一を図っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	新1年生のお子さまについて幼稚園の先生との移行支援会議、小学校との会議を行った。園や小学校での様子・ひまわりでの様子を共有し、対応・支援についての話し合いを行った。同時に放デイひまわりの想いや支援を知ってもらう機会になり、理解・連携が深まった。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	・年度初めに小学校の特別支援コーディネーターとひまわり管理者の会議を設けている。引渡確認書を作成し、書面で確認・共有するなど連携をとっている。 ・学校の年間計画や下校時刻は保護者からお便りを共有して頂き、ホームページ等でも確認し、トラブルを予防している。 ・送迎時に情報交換を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	・利用児に関する会議に参加し、保育園・小学校等の教育機関と情報共有を行っている。	

保護者との連携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		現在、該当児なし。 今後、御利用児が卒業する場合は必要に応じて提供していく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、相互に情報共有をし、研修があれば積極的に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		図書館の読み聞かせ会の参加をはじめ、図書館や公園など公共施設、お出掛け先での地域のこどもと交流する機会がある。	(以前、市児童館は利用を断られ) 児童館での他のこどもとの交流の機会はないため、機会があればぜひ行っていきたい。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	8		協議会の放デイ連絡会の会議には毎回参加している。研修会には管理者・児発管に加えて他職員も含め参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		日頃から連絡帳や送迎時のお話、モニタリングや個別支援計画の面談、相談支援等を通して、ご家族と様子・成長・課題を共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		・ペアトレを学んだ職員必要に応じてペアトレ要素を取り入れ、保護者のお悩みに対して相談に乗っている。 ・保護者会での家族支援プログラムや日常の支援場面の見学を通して、家族の対応力向上をサポートしている。 ・家族が参加できる講演会のお知らせを掲示や配布をして情報提供を行っている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に運営規程・支援プログラム・利用者負担等の重要事項説明書に沿って丁寧に説明している。今回の報酬改定等に伴う変更も保護者会で説明し文書でも伝えている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		お子さま用のリクエストボックスを設置している。ご家族の意向やニーズは連絡帳・日々のお悩み相談・意見箱等で伺い、個別支援計画や支援に活かしている。	リクエストボックスにはお子さまの視点で面白い希望がたくさんあり、今後も支援や活動に活かしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		「放課後等デイサービスの個別支援計画」を文書で示しながら丁寧に支援内容の説明をし、保護者から同意を得ているか。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		ご家族からの相談希望にはできる限り予定を調整して対応し、お悩みや相談に寄り添いながら必要な助言と支援を行い対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		3月：保護者会・説明会 6月：保護者会 8月：きょうだい含めた家族参加企画 10月：保護者会(きょうだい含め家族参加型ハロウィンパーティー)を実施。 きょうだいのもご家族もひまわりの活動や支援を楽しんで頂き、より一層理解が深まったとともに保護者同士の横のつながりの支援ができ、感謝の声をたくさん頂いた。	今後も企画・開催し、保護者同士の横のつながりの支援をしていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		日々の連絡ノートや送迎時に様子をお伝え安心して利用して頂けるよう工夫している。職員間の報連相を確実に行い、常により良い事業所を作るために話し合い改善している。	現在、苦情はなし。苦情が出た場合は職員みんなで話し合い会社全体で改善に努め適切に迅速な対応をしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		ひまわり通信やInstagramで写真と共に活動の様子をお伝えしている。 親子参加イベントや保護者会でご家族にも一緒に活動を体験してもらい、実体験を通した発信もしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・個人情報・写真・名前を含めた取り扱いに十分留意し徹底している。 ・ひまわり通信やSNSの写真掲載に関しては事前に同意書を通じて確認し同意・署名を頂いている。 ・記録用の写真は校舎用スマホで撮影し、職員個人のスマホは使用していない。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		文字や時計が読めない利用児に配慮し、絵カード等視覚的に捉えやすい支援や環境の構造化を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		地域のお店で買い物体験、畑で野菜の収穫体験、校舎の夏祭りに綿あめ屋さんに来て頂く等、地域の方と相互に交流を図っている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・各マニュアルを策定し周知している。 ・職員やご家族だけでなく、お子さまにも支援の一環として、感染症等手洗い実践、防災訓練、災害伝言ダイヤル171体験、心肺蘇生講習を実施している。終了後にはご家族に様子を伝えている。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		業務継続計画（BCP）策定し、防災訓練を定期的に実施。災害伝言ダイヤル171体験では家族にも体験をして頂き非常時に備えている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		契約時・利用開始前・お薬変更時には服薬情報を提出して頂き、状況を確認するとともに職員間で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギーのあるお子さまのおやつは別容器で管理を徹底している。クッキングやテイクアウトの際も事前にお伝えし対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		職員の研修・訓練に加えて、お子さまにも支援の一環としてSSTや防災訓練等を通して安全な行動や意識を高める取り組み実施。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		家族へ周知し連携を図っている。ひまわり活動時はもちろん小学校下校時の安全確保についても家族・小学校で協力連携を図っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットがあった場合、すぐに報告、用紙に記入、当日または翌日中に職員全員に共有し、大きな事故を予防している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止研修やグループワーク等の研修機会、終礼等で支援や対応の悩み相談ができる体制作りで適切な支援の徹底と同時に虐待防止に取り組んでいる。地域自立支援協議会や福祉課と連携している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		現在、身体拘束を必要とするお子さまはいない。	もしやむを得ず身体拘束を行う必要が出た場合には、事前に保護者に十分説明し了解を得て個別支援計画に記載する。